

2020年
10月号

商店街 × シェアハウス 若き3人の挑戦

JR寺田町駅から徒歩10分、生野銀座商店街の中ほどにある、今年3月にオープンしたばかりのシェアハウス「MASH(マッシュ)」。3階建ての長屋を購入し、2・3階を住居スペースにリノベーションした。商店街から繋がる1階部分は、今後イベントスペースを作る予定だという。

「MASH」を運営するのは、同じ大学で建築デザインをともに学んできた若き3人。大学院でもシェアハウスの可能性について研究してきたという小谷さん(写真中央)は、幼いころから生野のまちで育ち、この商店街での思い出も多い。

3人が考えたのは、商店街の空き店舗をシェアハウスとして活用すること。シェアハウスの住人同士の交流だけでなく、住人以外のまちの人たちとの交流によって、商店街やまちの活性化のきっかけになるのではないかの思いから。

もともとあった壁や天井をめくり、剥き出しとなった赤錆塗装の鉄骨やコンクリートブロック。それらを生かすように、壁に張られた昔ながらのラワン合板。



▲ 左から、辻さん、小谷さん、山本さん。小谷さんの父親が経営する「有限会社三和工業」で生まれた建築部門“ちいさな建築研究所”に3人は所属している。

シンプルで直線的なアイアンと木を組み合わせたテーブルやベンチ。間接照明やペンダントライトなど様々な光によって、あたたかで柔らかな空間がデザインされている。ここで暮らす人たちの会話も自然と広がる。壁一面のガラス窓からは、いつも商店街を近くに感じることができる。

「シェアハウスを選ぶ人は、留学生や、いろいろな経歴をもった方など、“オモシロイ”人が多い。」と話す小谷さん。

今はコロナウイルスの影響で人が集まることがなかなか難しいが、ゆくゆくは1階のイベントスペースを使って、住人とまちの人たちとの交流の仕掛けを作っていけると話す。

ありそうでなかった、シェアハウスと商店街の組み合わせ。3人の挑戦は始まったばかりだ。



▲ 2階のリビングは住人の憩いの場



▲ 2階の明るく清潔感あふれるキッチン店の前にて。



▲ 3階の共有スペース

2020年
11月号

“ビール造り”と“ロックンロール” 遊び心を忘れない大人たちの挑戦

ここは、新今里公園から徒歩5分、道路沿いにあり、見た目は倉庫かガレージか。そんな外見の建物の中では、2年前からクラフトビールが造られている。

この建物はもともと、餃子の皮を作っていた食品工場だったそう。もとの設備は、活かせるところをとことん活かし、ビールプラントとして必要最低限の手を加えた。けっして大きくないプラントは、まさに大人の理科実験室のようだ。

作っているのは、定年退職したビール造りはまったくの素人3人。



▲ 左から、安西さん、有本さん、桐山さん。

3人は学生時代からのバンド仲間。昨年、「ビルボード大阪を満席にしたい」と有本さんの思い付きでライブを企画。「ホントに叶ったんですよ！満席。ステージからのあの景色は忘れられない」と3人は笑いあう。

趣味で続けてきたバンドの仲間同士だ。地方へのライブ巡業中に、偶然立ち寄ったクラフトビール工場。「クラフトビール作りは簡単だって聞いたから、やっちゃおう！」有本さんは、こんな提案にのってくれそうなバンド仲間の2人を誘って、ちょっと無茶にも思えるビール造りに挑んだ。

「簡単なんてとんでもない！ホント試行錯誤で。最初は凍らせちゃったしね」と笑う安西さんと桐山さんも、この挑戦を楽しんでいるのが伝わってくる。

遊び心を忘れない3人のバンドマンは、いま生野のまちでビール造りに没頭中だ。



▲ 3人が手がけたビール。
イベント時やネットで販売されている。



▲ 様々なビール造りのための機材。

2020年
12月号

知れば知るほど見えてくる“こだわり”と “丁寧”がいっぱいのカフェ

そこは南巽駅からすぐ、車の行きかう大通りから一步入った場所。キラキラと輝く緑の葉の屋根の下をくぐって入る店内は、どこか南国の雰囲気が漂っている。このカフェの名は「ビスク」。

カフェを経営する久田さんは、11年前、純喫茶だった店内を友人たちとリノベーションした。ポコポコとした壁に赤茶色のペンキを塗ると、さながら土壁のように。窓枠やドアにはアンティーク加工を施し、四角いタイルをはがした床には、模様のようにコンクリートに糊の跡が残った。革張りのイスは印象的な柄の生地張り替え、いくつもの色板が組み合わされたテーブルの天板は、一つ一つ色を選んでオーダーした。道路からドアまでをつなぐのは線路の枕木だ。木漏れ日が心地よく降り注ぎ、まるで隠れ家のような。椅子に腰かけた瞬間に感じる心地よさは、それら全てが調和しているからなのだろう。

カフェで提供されている食材にもこだわりがある。



▲ パテは自家製。バンズは、パテに合うように特別につくられたもの。



自然いっぱいの中で平飼いされたにわとりの卵、トマトソースやパン、ベーコン、ソーセージにいたるまで、全国各地から大事に作られたものを取り寄せている。また、店内で販売する雑貨や焼き菓子も、手仕事で丁寧につくられたこだわりのものばかり。

「良いモノなのに、あまり知られていないモノが世の中にはたくさんある。そういったモノにきちんと光を当てられるような場所を作っていきたい。」



◀ カフェを経営するサンフェイスグループ代表の久田亮平さん。実は、この他にも福祉に関わる活動を幅広く展開している。くわしくはブログをご覧ください！

販売もされているチェア ▶ マット。様々な色パターンを選ぶのも楽しい。

と久田さんは話す。気さくなスタッフさんからもビスクのストーリーをまだまだ聞いてみたくなる、そんな店だ。



▲ 金曜日のみナイト営業をしている。夜は雰囲気ががらりと変わる。

